

平成26年度



森林環境教育活動事例集



「木曽川源流での野外体験活動」
木曽岬町立木曽岬小学校



「丸太切り、コースター作り、マイ箸作り、ネイチャーゲーム」
津市立南立誠小学校



「竹笛作りと自然の素材を使った楽器作り」 森の風ようちえん



「尾鷲ヒノキ植樹体験森林塾」 尾鷲市立宮之上小学校

はじめに

三重県では、森林を県民共有の財産と捉え、これを健全な姿で次代に引き継いでいくため、平成17年10月に「三重の森林づくり条例」を制定し、この条例に基づいて「三重の森林づくり基本計画」を策定しています。この基本計画に基づいて森林・林業に係る各種施策を展開しており、この中で「森林文化及び森林環境教育の振興」を4つの基本方針の内の1つに掲げて、市町や団体等のさまざまな主体との連携による森林環境教育の機会の増大を図ってきたところです。

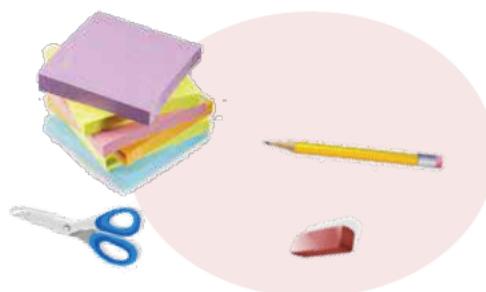
また、平成26年4月より「みえ森と緑の県民税」を導入し、「災害に強い森林づくり」とともに「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めています。「県民全体で森林を支える社会づくり」の取組の1つとして、学校等が実施する森林環境教育に取り組む際のサポートを行っています。

本書は、平成26年度に県内の学校等で実施された森林環境教育の活動事例について、学校等から提供いただいた情報をもとに編集したものです。学校等での今後の取組の際に、本書の事例を参考にしていただければ幸いです。

活動事例に関してのご不明な点は、みどり共生推進課までお問い合わせください。外部講師の紹介や活動のコーディネートなど、森林環境教育全般のご相談についてもみどり共生推進課で受け付けていますので、ご連絡ください。

最後に、この場をお借りしまして、活動事例をご提供いただきました学校等の先生方、園児・児童・生徒の皆さんにお礼申し上げます。

平成27年3月 三重県農林水産部みどり共生推進課



森林環境教育

「森林内での様々な活動体験等を通じて、人々の生活や環境と森林との関係について理解と関心を深める」(平成14年度森林・林業白書)



目 次

1	木曽岬町立木曽岬小学校	
	「木曽川源流での野外体験活動」	1
2	四日市市立小学校6校・四日市市立中学校2校	
	「四日市市少年自然の家での里山保全活動」	2
3	鈴鹿市立合川小学校	
	「森の自然を使った置物作り」	3
4	津市立北立誠小学校	
	「特別編環境学習～林業に焦点を当てた環境学習～」	4
5	津市立南立誠小学校	
	「丸太切り、コースター作り、マイ箸作り、ネイチャーゲーム」	5
6	津市立明合小学校	
	「地域の樹木に親しむ」	6
7	津市立長野小学校・高宮小学校・辰水小学校	
	「美里水源の森での林業体験学習」	8
8	松阪市立大河内小学校	
	「枝切り・皮剥体験と檜皮による草木染め体験」	9
9	松阪市立松ヶ崎小学校	
	「環境学習「あかね学級」と木工工作(1、2年生)森林・林業学習(3～6年生)」	11
10	松阪市立鶴小学校	
	「校庭の木の樹名板作り」	13
11	明和町立下御糸小学校	
	「森の話と尾鷲ヒノキ製の押し寿司キット組立」	14
12	伊賀市立新居小学校	
	「高旗山登山及び自然観察～新居小学校緑の少年隊～」	15
13	伊賀市立上野西学校	
	「阿山ふるさとの森公園での自然観察」	16
14	伊賀市立島ヶ原小学校	
	「木製品作り(テープカッター、ペン立てなど)」	17
15	紀北町立上里小学校	
	「広葉樹の植樹体験」	19
16	尾鷲市立宮之上小学校	
	「尾鷲ヒノキ植樹体験森林塾」	20
17	いなべ市立大安中学校 テクニカルボランティア部	
	「ロープワークを学ぼう・活用しよう」	21
18	津市立各中学校	
	「県産材を利用した木製品作りの設計と製作」	22
19	三重県立尾鷲高等学校	
	「「尾鷲ヒノキを使った著作り」による森林・林業学習」	23
20	森の風ようちえん	
	「竹笛作りと自然の素材を使った楽器作り」	24
(参考1) 森林環境教育出前授業チラシ		25
(参考2) 「みえ森と緑の県民税」を活用した森林環境教育について		27

1

木曽川源流での野外体験活動

木曽岬町立木曽岬小学校

木曽岬町は、木曽川の最下流部に位置しています。木曽岬町立木曽岬小学校では、上流部の森林によって下流地域が支えられていることを学ぶために、平成26年7月16日(水)、17日(木)、5年生51人が木曽川源流(長野県木祖村)を訪れ、野外体験活動を実施しました。

1日目の16日は、木祖村の水木沢天然林でトレッキングを行いました。子どもたちは、現地NPOガイドの案内により、山道を歩きながら、人工林と天然林との違いや様々な木の姿を間近で感じました。トレッキングの後は、宿泊場所の「こだまの森」で、飯盒炊さんやキャンプファイヤーを体験しました。

2日目の17日は、クラスごとに分かれ、味噌川ダム(奥木曽湖)でカヌー体験、こだまの森でマスづかみ体験を行いました。カヌー体験では、森林に囲まれたダムで、豊かな自然を感じながら、自分の力でカヌーを操ることができるようになりました。マスづかみ体験では、水の中に足をつけて次々とマスをつかまえた後、マスを塩焼きにしていただきました。

子どもたちは、木曽川源流を訪ることによって、木曽岬町の自然環境や農水産業が、上流の豊かな森林によって育まれていることを感じることができました。また、町内には森林がないこともあります、子どもたちが、森林や自然に親しむ貴重な機会となりました。



水木沢天然林でのトレッキング



キャンプファイヤー



カヌー体験

時間	2日間
場所	長野県木曽郡木祖村(木曽川源流の里)
対象者・人數	5年生51人
講師	現地NPOガイド
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・森林でのトレッキング ・キャンプファイヤー ・カヌー体験、マスづかみ体験
備考	「みえ森と緑の県民税」市町交付金を活用した町事業「森林環境教育事業」

2

四日市市少年自然の家の里山保全活動

四日市市立小学校6校
四日市市立中学校2校

四日市市立小中学校8校では、四日市市少年自然の家で、職員の方々や技術指導員の桐生定己さんの指導のもと、里山保全活動に取り組みました。

子どもたちはまず、里山について学習しました。講師の方から、里山はどのように利用されているかというところから始まり、人の生活様式の変化により里山がどのように変化しているのかということについてのお話を伺い、里山を守るためにどうしたら良いかを考えました。

次に、子どもたちは、実際に常緑樹の間伐作業を体験しました。間伐した木は、薪の長さに切りそろえました。

この活動を通して、子どもたちは、里山や里山保全活動の大切さについて理解を深めることができました。



間伐作業の様子



間伐した木を切りそろえています

時間	2時間～3時間
場所	四日市市少年自然の家 研修室・ふれあいの森
年月日・対象者・人數	<ul style="list-style-type: none">・平成26年4月22日（火） 四日市市立塩浜中学校 58人・平成26年6月4日（水） 四日市市西陵中学校 67人・平成26年6月25日（水） 四日市市立泊山小学校 102人・平成26年6月26日（水） 四日市市立小山田小学校 41人・平成26年10月21日（火） 四日市市立三重西小学校 83人・平成26年11月5日（水） 四日市市立桜台小学校 64人・平成26年11月7日（金） 四日市市立中部西小学校 72人・平成26年11月20日（木） 四日市市立中央小学校 40人
講師	<ul style="list-style-type: none">・四日市市少年自然の家の職員・技術指導員 桐生定己さん
内容	<ul style="list-style-type: none">・里山の話・間伐作業

3

森の自然を使った置物作り

鈴鹿市立合川小学校

鈴鹿市立合川小学校では、平成26年10月1日（水）、1、2年生26人が「森の自然を使った置物作り」に取り組みました。

子どもたちは、本田技研環境ワゴンのメンバーから、山の自然や自然保護の大切さについてのお話を伺いました。その後、枝や幹を切ったり、ボンドで木の実を接着したりして、置物やベン立て作りに取り組みました。

低学年の子どもたちにとって、ノコギリやキリを使うことは初めての経験でしたが、子どもたちの安全が確保されるよう、環境ワゴンのメンバーの方に指導や手伝いを行っていただきました。

この授業を通して、子どもたちは、自然のものを使って造形する楽しさを感じるとともに、自然保護の重要さを理解することができました。



山の自然や自然保護についての話



置物作り



完成した作品

時間	1時間30分
場所	図工室
対象者・人數	1、2年生26人
講師	本田技研工業環境ワゴン
内容	・山の自然や自然保護についての話 ・枝や幹、木の実を使った置物作り

4

特別編環境学習～林業に焦点を当てた環境学習～

津市立北立誠小学校

津市立北立誠小学校では、平成26年11月28日（金）に、4年生70人が「林業に焦点を当てた環境学習」に取り組みました。

平成26年11月10日（月）から12月25日（木）まで、三重大学の主催により、三重大学レーモンドホールで「WOOD JOB！」と三重大学演習林～御神木が三重大学に来た！～と題した企画展が開催されました。子どもたちは、その企画展を訪れ、映画「WOOD JOB！」の展示から、林業がどのような仕事なのか、木が育つにはどれほどの年月が必要なのかについて、三重大学生物資源学部の学生の方からお話を伺いました。また、展示物の中には、三重大学の演習林から採取した木の実、種、動物の標本などがあり、木の種類や生物の生態系について学びました。

その後、ヒノキの丸太から1人1つずつオリジナルコースターを製作しました。オリジナルコースターは、ノコギリや焼印を使って製作しました。

これまで、4年生の子どもたちは、環境学習を「志登茂川と町屋海岸」といった水質の学習として進めてきました。今回の林業の学習を通して、河川をきれいにするだけでなく、水源地である森林を育していくことが河川の環境保護につながることを学びました。

また、コースター作りでは、ヒノキの木を使って製作しました。子どもたちは、ヒノキの香りや、表皮に興味を抱いており、木の特性や種類についても考える良い機会となりました。



林業についての説明



展示物から木や動物について調べました



ヒノキの丸太を使ったコースター作り

時間	1時間30分
場所	三重大学レーモンドホール
対象者・人数	4年生70人
講師	国立大学法人 三重大学 環境ISO学生委員会副委員長 森元貴大さん 他、三重大学 環境ISO学生委員会の職員及び学生
内容	映画「WOOD JOB！」の展示会から 林業と河川の環境学習 ・林業について学ぶ ・三重大学の演習林から学ぶ ・ヒノキの丸太を使ったコースター作り
備考	三重大学 環境ISO学生委員会と連携

5

丸太切り、コースター作り、マイ箸作り、ネイチャーゲーム

津市立南立誠小学校

津市立南立誠小学校では、平成26年10月24日（金）、3年生85人とその保護者76人が森林環境教育に取り組みました。

子どもたちとその保護者はクラス別に分かれて、講師のNPO法人もりずむの方々の指導のもと、丸太切りや切った丸太を使ったコースター作り、マイ箸作り、滑車の体験、木の積み木や木製のカホン、シロホンといった楽器との触れ合い等、様々な活動を行いました。また、三重県環境学習情報センターの木村京子さんの指導のもと、箱の中の木の実等が何種類あるかを触って当てるネイチャーゲームを体験しました。その後、学年全体が集合して、NPO法人もりずむの三浦妃己郎さんから、「木製品は長く使える」「地域材を使うと地域の森を元気にできる」というお話を伺いました。

この活動を通して、子どもたちが木の特性を知るとともに、木製品への愛着や地域材を使うことに対する正しい理解を育む良い機会となりました。



丸太切り



コースター作り



マイ箸作り



滑車の体験



ネイチャーゲーム

時間	1時間30分
場所	体育館
対象者・人數	3年生85人・保護者76人 体験は3クラスに分かれて実施
講師	・NPO法人もりずむ ・三重県環境学習情報センター 木村京子さん
内容	丸太切り、コースター作り、マイ箸作り、 ネイチャーゲーム等と森の話
備考	「みえ森と緑の県民税」を活用した 森林環境教育出前授業

6

地域の樹木に親しむ

津市立明合小学校

津市立明合小学校では、地域の樹木や自然に親しみ、その理解を深めるために、1、2年生の子どもたちを対象に、「地域の樹木に親しむ」と題して森林環境教育を実施しました。

第1回目の平成27年1月16日（金）には、2年生16人が校庭に出て、講師の「森のせんせい」の方々の指導により、ネイチャーゲームを通して、ヒラヤマスギやカイヅカイブキ、ヒサカキ、タイサンボクといった木々と触れ合いました。その後、教室で、年輪についてのお話を伺った後、丸太を使ったジグソーパズル作りを行いました。

また、第2回目の2月6日（金）には、1、2年生27人が秘密キチ研究会や「森のせんせい」の方々の指導のもと、校庭で、地域の竹を使ったスタードーム作りを行いました。その後、完成したドームの中で、秘密キチ研究会の方々から、拡大する竹藪についてのお話を伺った後、竹に関するクイズにも取り組みました。

全2回の授業を通して、子どもたちは、校庭や地域にある木々に触れ合い、その種類や特性を理解することができました。

1月16日 校庭の樹木に親しむ



ネイチャーゲーム



年輪の話



完成した丸太ジグソーパズル

時間	1/16 1時間40分 2/6 2時間
場所	校庭及び教室
対象者・人數	1/16 2年生16人 2/6 1年生11人・2年生16人 計27人
講師	1/16 県が登録する森のせんせい 6人 2/6 秘密キチ研究会 幸田高由さん 松浦まりなさん 山尾卓司さん 県が登録する森のせんせい 3人
内容	1/16 ネイチャーゲーム、年輪の話、 丸太ジグソーパズル作り 2/6 スタードーム作り、竹の話
備考	「みえ森と緑の県民税」を活用した 森林環境教育出前授業

2月6日 スタードーム作り



竹を紐で結びます



竹を星の形に並べます



組み合わせた竹を
持ち上げます



枠組みが完成しました



完成したスタードーム



幕をかけます



スタードームの中

津市立長野小学校・高宮小学校・辰水小学校

平成26年11月18日(火)、津市美里地域の小学校3校の5年生29人が、林業体験を通した森林環境教育に取り組みました。

子どもたちは、津市の水源の1つにあたる美里水源の森で、美里林業研究グループ会長の古川敏市さんから、間伐の必要性や木の切り方など、森林・林業についてのお話を伺いました。その後、丸太を切ってノコギリの使い方を練習した後、美里林業研究グループや中勢森林組合の方々に教えていただき、間伐や玉切りといった林業体験に取り組みました。体験後は、枝打ちのデモンストレーションもあり、子どもたちはその様子を熱心に見学しました。

この活動を通して、子どもたちは、森林・林業に対する理解を深めることができました。また、間伐や玉切りが初めての子どもたちにとって、大変貴重な体験となりました。



ノコギリの使い方を練習をしています



間伐体験



木を切るのは大変でしたが、倒れていく木の迫力にびっくりしました

時間	2時間
場所	美里水源の森(津市美里町)
対象者・人數	5年生29人
講師	美里林業研究グループ 他、中勢森林組合の職員
内容	・森林・林業の話 ・林業体験学習…間伐、玉切り
備考	「みえ森と緑の県民税」市町交付金を活用した市事業「美里水源の森整備事業」

枝切り・皮剥(かわはぎ)体験と 檜皮(ひわだ)による草木染め体験

松阪市立大河内小学校

松阪市立大河内小学校では、6年生12人を対象に、枝切り・皮剥体験や草木染め体験を内容とした森林環境教育に取り組みました。

平成26年9月4日(木)の事前学習では、森林の役割や樹木の分類について学んだ後、地域の森林に生えている樹木について、実際に木の枝を見ながら学習しました。

9月12日(金)には、小学校の学校林で、チェーンソーで切った木をロープで引っ張って倒した後、倒した木の枝を切ったり、皮を剥がす林業作業を体験しました。体験の後は、自然を使った作品作りや草木染めの材料を当てるネイチャーゲームを行いました。

10月29日(水)には、学校林での学習の時に剥いだヒノキを使って、草木染めを体験しました。草木染めでは、工夫して模様をつけたオリジナルのハンカチを作ることができました。その後、子どもたちは、ドングリの種類分け等のゲームや、ドングリを使ったキーholder作りを楽しみました。

これらの活動を通して、子どもたちは、森林の役割や森林を守ることの大切さを理解するとともに、林業作業を体験することを通して、樹木に親しみ、働くことの意義や林業の大切さを知ることができました。また、学校林のいわれを知るとともに、地域の人の子どもたちに対する気持ちを知ることができました。

9月4日 事前学習



実際に、樹木の枝を見せてもらい、
観察しました

時間	9/4 1時間30分 9/12 6時間 10/29 2時間15分
場所	9/4 教室 9/12 小学校学校林 10/29 家庭科室
対象者・人数	6年生12人
講師	・林業研究会 松田和生さん、堀田郁弥さん、前川政男さん、森勝之さん ・まちづくり協議会会長 高杉勲さん ・公民館長 堀田一忠さん ・自治会長 中村一義さん ・県林業普及指導員 北出満さん ・県が登録する森のせんせい 奥川次郎さん
内容	9/4 事前学習 …森林、樹木についての学習 9/12 学校林演習学習 …林業作業体験、自然を使った作品作り、ネイチャーゲーム 10/29 草木染め …草木染め体験、ドングリの種類分け等のゲーム、キーholder作り
備考	公益社団法人三重県緑化推進協会 森林環境教育促進事業助成金を活用

9月12日 学校林演習学習



地域の方から話を聞きました



ヒノキの樹皮を剥ぐ作業をしました



枝を切ったり、剥いた皮を集めたりしました

10月29日 草木染め体験



自分たちで剥いたヒノキの皮を使って
ハンカチを染めました

環境学習「あかね学級」と木工工作(1、2年生) 森林・林業学習(3~6年生)

松阪市立松ヶ崎小学校

松阪市立松ヶ崎小学校は、全学年で、環境学習や木工工作等の森林環境教育に取り組みました。

1、2年生16人は、平成26年9月30日(火)に、環境学習「あかね学級」で「松阪の森」や「森と環境」について学んだ後、木工工作(木切れを使った公園や城作り)に取り組みました。

3~6年生54人は、9月4日(木)に、ウッドピア松阪の原木市場と、木材の加工工場を見学(工場ウォッチ)した後、原木ノコギリ体験や木工工作(CD入れ作り)を行いました。その後の環境学習「あかね学級」では、「松阪の森」や「森と環境」について学習しました。

子どもたちは、木工工作やノコギリ体験等を通して、木の温もりを肌で感じ、木と触れ合うことの楽しさを感じることができました。また、松阪地域の木材を使うことが松阪の自然環境を守ることにつながることを知り、郷土の森林を守ることの大切さについて意識を深めることができました。

1、2年生の活動風景 9月30日



環境学習「あかね学級」



木工工作
(木切れを使った公園や城作り)

- ・1年生「あきのこうえん」
板の上に、木切れや紙粘土等の材料を組み合わせて、自分が遊んでみたい公園を作りました。
- ・2年生「わたしのしろ」
板の上に、木切れを組み合わせて、自分が行ってみたい城や住んでみたい城を作りました。

時間	1、2年生 3~6年生	2時間 5時間
場所	1、2年生 3~6年生	パソコン教室、各教室 ウッドピア松阪
対象者・人数	1、2年生 3~6年生	16人 54人 計70人
講師	・松阪地区木材協同組合理事 IWA木材アドバイザー 久保敦子さん ・「顔の見える松阪の家づくり推進協議会」メンバー	
内容	1、2年生 3~6年生	環境学習「あかね学級」、 木工工作(木切れを使った公園や城作り) 森林・林業学習(工場ウォッチ、原木ノコギリ体験、 木工工作(CD入れ作り)、環境学習「あかね学級」)
備考	「みえ森と緑の県民税」市町交付金を活用した市事業「森林環境学習事業」	

3～6年生の活動風景 森林・林業学習「ウッドピア松阪」 9月4日



工場ウォッチ



原木ノコギリ体験



木工工作(CD入れ作り)



環境学習「あかね学級」

10

校庭の木の樹名板作り

松阪市立鶴小学校

松阪市立鶴小学校では、6年生27人が卒業制作として、「校庭の木の樹名板作り」に取り組みました。

10月30日(木)には、樹木医で「森のせんせい」でもある末良学さんの指導により、「校庭の木の高さと名前調べ」を行いました。「木の高さ調べ」では、校庭にある一番高い木の高さを、手作りの測高器を使って測り、高さを算出する方法を学びました。また、「名前調べ」では、子どもたちが、資料を見ながら、描かれている木と同じ木を校庭で探して答え合わせを行うことで、校庭にある木について学習しました。

2月には、「名前調べ」で調べた木の樹名板作りを行い、2月19日(木)に、校庭の木に各々が作成した樹名板を設置しました。設置した後は、末良学さんから、樹名板をつけた木や、木が冬期に凍結しないように自らの身を守る工夫をしていることについてお話を伺いました。

これらの授業を通して、子どもたちは校庭の木に親しむことができたほか、樹名板を設置することで身近な木に愛着を持ち、木への理解を深めることができました。

設置した樹名板は、今後、学校での学習に活用します。



木の高さ調べ



木の名前調べ



木についての学習



樹名板の設置

時間	10/30 1時間30分 2/19 1時間30分
場所	校庭、教室
対象者・人数	6年生27人
講師	県が登録する森のせんせい・樹木医 末良学さん
内容	10/30 校庭の木の高さと名前調べ 2月上旬～中旬 樹名板作り 2/19 樹名板の設置
備考	「みえ森と緑の県民税」を活用した 森林環境教育出前授業 ※10/30と2/19のみ

森の話と尾鷲ヒノキ製の押し寿司キット組立

明和町立下御糸小学校

明和町立下御糸小学校では、平成26年11月7日（金）、6年生28人が総合の時間に、「尾鷲ヒノキ製の押し寿司キットの組立」を行いました。

子どもたちは、ウッドメイクキタムラの北村英孝さんと株式会社貫じん堂の辻村みすづさんから、「山は適度に木を切り出す必要があり、それによって土砂災害に強い山を育てることができる」ことや、「尾鷲ヒノキは年輪が緻密なので強度が強く、殺菌効果もある」というお話を伺いました。

その後、尾鷲ヒノキ製の押し寿司キットを組み立て、森林認証の焼印を押し、電熱ペンで名前を入れました。

12月には、完成した型で、学校で作っているお米を使って押し寿司を作って食べました。



森の話



押し寿司キットの組立



作業風景



名前入れ

時間	1時間35分
場所	図工室
対象者・人数	6年生28人
講師	・ウッドメイクキタムラ 北村英孝さん ・株式会社貫じん堂 辻村みすづさん
内容	・森の話 ・尾鷲ヒノキ製の押し寿司キット組立
備考	「みえ森と緑の県民税」を活用した 森林環境教育出前授業

伊賀市立新居小学校

伊賀市立新居小学校は、5、6年生全員が緑の少年隊に加入し、緑化推進等の活動を行っています。

学校の近くにある高旗山には、江戸時代中期から明治期にかけて、米相場などの情報を伝えるために、旗などを用いた通信システム「旗振り通信」(大型手旗信号の一種)が行われていたという歴史があります。この新居地区のシンボルである高旗山の登山道が、住民自治協議会により再度整備されるようになってから本年度で7年目です。

平成26年10月21日(火)、その整備された登山道を通り、5年生隊員全員で登山しました。

当日は、好天に恵まれ、野鳥や樹木、また、登山道から見える新居地区や伊賀盆地の様子を観察しました。

山頂では、西山地区自治会長の重倉貢さんから、高旗山及び新居小の高旗登山の歴史、昭和28年の水害による大被害の様子、さらに、自然災害を防ぐため森林を守り育てていくことの大切さ、林業の仕事等についてのお話を伺いました。その後、登頂記念として桜の苗を植樹し、隊員及び指導者全員の名前を記入した記念プレートを建てました。



出発前の様子



山頂にて 重倉自治会長さんのお話



登山道をひたすら



記念植樹とパネル

時間	2時間30分
場所	高旗山
対象者・人數	5年生28人
講師	西山自治会長 重倉貢さん
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高旗山登山 ・森林・林業の話 ・昭和28年の水害についての話 ・記念植樹
備考	公益社団法人三重県緑化推進協会 緑の少年隊育成強化事業補助金を活用

13

阿山ふるさとの森公園での自然観察

伊賀市立上野西小学校

伊賀市立上野西小学校では、平成26年10月28日(火)に、3年生129人が阿山ふるさとの森公園で、自然観察と散策を行いました。

午前中には、講師の先生方の指導のもと、公園内の森、池、川で自然観察を行いました。森ではきのこを探し、見つけたきのこについて学習した後、森の土と沼の土をスコップで掘ってみて、土の違いについても学習しました。また、森にすむ昆虫などの生き物を探し、食物連鎖について教えていただきました。池では、池の水をくってそこにすむ生き物を調べたり、顕微鏡でプランクトンを観察したりしました。川では、カラスガイなどの生き物を捕まえたり、川の役割について学習したりしました。また、午後には、公園を散策しながら自然を満喫しました。

これらの活動を通して、子どもたちは、実際に生き物を見たり探したりしながら、五感を使って有意義な学習をすることができました。



森できのこを探し、説明を受けました



川にすむ生き物を探しました



池の水をくって、池にすむ生き物を調べました



森で生き物を探し、食物連鎖について学習しました

時間	1日間
場所	阿山ふるさとの森公園
対象者・人數	3年生129人
講師	県が登録する森のせんせい及び三重大学伊賀研究拠点の職員 6人
内容	自然観察と散策
備考	「みえ森と緑の県民税」市町交付金を活用した市事業「伊賀の森っこ育成推進事業」

伊賀市立島ヶ原小学校

伊賀市立島ヶ原小学校では、全学年の子どもたちが、森林や木についての学習や木製品作りを内容とした森林環境教育に取り組みました。

1年生9人は平成26年10月22日(水)に、2、3年生24人と4、5年生44人は平成26年11月21日(金)に、6年生7人は平成27年2月4日(水)に活動を実施しました。

子どもたちは、穂積製材所の船木直人さんに教えていただき、ヒノキ、スギ、サクラ、クヌギ等様々な木の原木を触ったり、匂いをかいだりしながら、それぞれの木の特色について学びました。また、森林の様子や間伐材の使われ方、木のぬくもりや木製品の良さ、木の使われ方についてのお話を伺いました。その後、1年生はテープカッター作り、2、3年生はベン立て作り、4、5年生はトレー作り、6年生はベンチ作りに取り組みました。

4、5年生や6年生の子どもたちは、船木さんが森林環境に関心を持つようになったきっかけや、製材所の仕事に携わるようになった思いについてお話を伺いました。また、木に関係した仕事にかける夢についても語っていただきました。

これらの授業を通して、子どもたちは森林や林業についての理解を深めることができるとともに、木製品を製作することで、木の特性や木製品の良さを知ることができました。



木の香りを調べています



木のパーツを組み合わせて、様々な形のベン立てができました(2、3年生)

時間	1年生 1時間30分 2、3年生 1時間30分 4、5年生 1時間30分 6年生 3時間
場所	技術室、図工室
対象者・人数	1年生 9人 2、3年生 24人 4、5年生 44人 6年生 7人 計84人
講師	穂積製材所 船木直人さん
内容	①さまざまな種類の木に触れる ②森や木の話 ③製作活動 1年生……「テープカッター作り」 2、3年生…「ベン立て作り」 4、5年生…「トレー作り」 6年生……「ベンチ作り」
備考	「みえ森と緑の県民税」市町交付金を活用した市事業 「伊賀の森っ子育成推進事業」



完成したテープカッター(1年生)



森林の話を聞いています



トレーの組み立て方の説明を
聞いています(4、5年生)



トレーの枠に釘を打つのはむずかしいです
(4、5年生)



ベンチの天板はスギやヒノキの年輪を
模様にして貼り付けました(6年生)



木の香りに包まれながらの作業は
とても楽しかったです(6年生)

ベンチは卒業制作も兼ねて作りました
(6年生)



15

広葉樹の植樹体験

紀北町立上里小学校

紀北町立上里小学校では、平成27年2月3日（火）、4～6年生27人が紀北町海山区河内の町有林で広葉樹の植樹体験に取り組みました。

子どもたちは、紀北町農林水産課及び海山総合支所産業建設室の職員の方々から、紀北町内で育てられるヒノキの特徴や森林の役割などのお話を伺った後、6年生がモミジの苗木を、4、5年生がクヌギ・コナラの苗木を植栽しました。

この授業を通して、子どもたちは地域の林業について理解するとともに、みんなで協力して植樹することで、連帯感を高めることができました。



森林についての話を
聞いています



モミジの植樹体験



モミジの苗木は大きいので
植えるのが大変です



クヌギの植樹体験



コナラの植樹体験

時間	1時間30分 ※学校から体験場所までの移動 30分 植樹体験 1時間
場所	紀北町海山区河内の町有林
対象者・人數	4～6年生 27人
講師	紀北町農林水産課及び 海山総合支所産業建設室の職員
内容	・ヒノキや森林の役割の話 ・広葉樹の植樹
備考	「みえ森と緑の県民税」市町交付金を活用 した町事業「森林環境教育事業」

尾鷲市立宮之上小学校

平成26年10月17日(金)に、尾鷲市立宮之上小学校の5年生、6年生あわせて44人が、尾鷲市九鬼町の「漁民の森」で、尾鷲林業を学ぶ森林学習と尾鷲ヒノキの植樹体験に取り組みました。

子どもたちは、尾鷲市木のまち推進課の職員の方々からお話を伺い、尾鷲林業の歴史や尾鷲地方に適した植栽方法「密植」について学習しました。

次に、子どもたちは1人あたり25本程度、ヒノキ苗の植樹を行いました。また、約50年生になるヒノキの間伐作業を見学し、林業における間伐の必要性について理解を深めました。

その後は、県立熊野古道センターで、オリジナルのヒノキスプーン作りを行いました。子どもたちは、作ったスプーンにオリジナルの絵を描き、スプーンを完成させました。

この活動を通して、子どもたちは森林に触れ合うとともに、森林や尾鷲林業に対する知識を身に付けることができました。



林内を歩いています



ヒノキ苗植樹



森林学習



ヒノキスプーン作り

時間	3時間30分(半日)
場所	尾鷲市九鬼町「漁民の森」
対象者・人数	5、6年生 44人
講師	尾鷲市木のまち推進課の職員
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・森林学習 ・ヒノキ苗の植樹 ・間伐作業の見学 ・ヒノキスプーン作り
備考	「みえ森と緑の県民税」市町交付金を活用した市事業「尾鷲ヒノキ植樹体験森林塾」

いなべ市立大安中学校 テクニカルボランティア部

いなべ市立大安中学校テクニカルボランティア部は、平成26年7月28日（月）、いなべ市北勢町の山林に隣接する広場で、野外キャンプ活動の一環としてロープワークに取り組みました。

部員8名が、県農林水産部みどり共生推進課森づくり推進員の村松さや華さんの指導により、数人1組で体を動かすアイスブレイクの後、ひと結び・ふた結び・とっくり結び・もやい結び・万力結びというロープワーク5種類について学びました。

学んだロープワークを活用してプランコを作成する生徒や、自ら新たな結びを学びに来る生徒もあり、積極的に取り組む姿勢が見られました。

ロープワークは、複数の丸太や枝を束ねる時や、軽トラックの荷台に荷物を固定する時など、様々な場面で活用することができ、本活動後の部活動で、間伐材を利用した作品を作る時などに活用しています。



アイスブレイク



ロープワークの必要性を知る



もやい結びを学ぶ



万力結びを学ぶ

時間	3時間
場所	山林に隣接する広場
対象者・人數	部員8人
講師	県農林水産部みどり共生推進課 森づくり推進員 村松さや華さん
内容	ロープワーク
備考	「みえ森と緑の県民税」を活用した 森林環境教育出前授業

津市立各中学校

津市立各中学校では、技術の授業計27時間を使って、「県産材を利用した木製品作りの設計と製作」に取り組みました。

一連の授業では、生徒たちは、県産材を使うことの意義について学習した後、県産材を使った木製品の設計と製作を行いました。

設計の時には、班に分かれて、生産者の視点で消費者のニーズを考え、ニーズに応えるにはどうしたら良いかを話し合いました。その中で、これまでの自分の欲しいものを作る時と違い、自分たちの設計を客観的に評価し、改良を加えていく過程が見られました。製作品が完成した後も、班で消費者の目線に立って、製作品の評価を行いました。

この授業を通して、生徒たちは、三重県の林業について学習したこと、防災という点だけではなく、地元の産業について興味や関心を高めることができました。特に、林業に取り組む映画「WOOD JOB(ウッジョブ)！神去なあなあ日常」が津市で撮影され、平成26年に公開されたこともあり、生徒たちにとってはとりわけ関心が高かったです。また、生徒たちが、製作品を客観的に評価することで、自らが製品を購入する時に「消費者として商品を評価する力」を身に付けることができました。



三重県産の木材を使う意義を考える授業



正確な加工をめざした共同作業



製作した県産材を使った木製品

時間	27時間
場所	津市立各中学校技術室等
対象者・人数	津市内中学生約2,000人
講師	三重大学教育学部准教授 中西康雅さん
内容	①県産材を使うことの意義を考える …安全・安心な生活の視点での授業の工夫 ②県産材を使った木製品の設計 …消費者のニーズに応えるものづくりの工夫 ③県産材を使った木製品の製作 …設計図通りの正確な加工 ④製作品の評価・改良 …班での評価

三重県立尾鷲高等学校

県立尾鷲高等学校では、8月末から11月末までの約3ヶ月間にわたり、1年生の美術の授業で、尾鷲ヒノキを使った箸作りに取り組みました。

平成26年11月10日(月)、12日(水)、14日(金)には、美術選択の1年生が各日3講座に分かれて、県尾鷲農林水産事務所林業普及指導員の北川雅義さんからお話を伺い、尾鷲ヒノキや森林・林業について学習しました。「尾鷲ヒノキの産地である尾鷲市と紀北町の面積の約9割を森林が占める」ことや、「林業には、植え付けや下刈り、除伐、枝打ち、間伐、主伐等一連の仕事がある」、「地域の森林から生産された木材を使うことが、地域の活性化や森林の再生につながる」といった説明があり、生徒たちは熱心に聞き入っていました。

講義の後は、生徒々が尾鷲をイメージしたデザインをもとに、ヒノキの木材を削ってオリジナルの箸作りを進めました。完成した作品は、県立熊野古道センターで開催される「マイはしコンテスト」に出品しました。



尾鷲ヒノキや森林・林業について学ぶ



尾鷲ヒノキを使った箸作り



作業風景

時間	50分 ※尾鷲ヒノキを使った箸作りは、8月末から11月末までの美術の授業、計20時間を通して実施
場所	美術室
対象者・人數	美術選択1年生55人 3講座に分かれて実施
講師	・県林業普及指導員 北川雅義さん ・NPO法人海虹路(えこうろ)
内容	・尾鷲ヒノキや森林・林業についての講義 ・尾鷲ヒノキを使った箸作り
備考	「みえ森と緑の県民税」を活用した 森林環境教育出前授業

森の風ようちえん

菰野町にある「森の風ようちえん」は、自然体験を重視して、菰野町の豊かな自然を活かした子どもたちの学び・遊びを実践しています。平成27年1月22日(木)には、園児48人が「竹笛作りと自然の素材を使った楽器作り」に取り組みました。

子どもたちは、講師のあぱっち宮原さんの指導のもと、竹を磨いて電熱ペンで絵を描き、首から下げる紐にビーズを通して飾り付けし、竹笛を完成させました。また、園舎の周辺から竹や木の枝などの材料を探し、オリジナルの楽器を作成しました。その後、講師の先生から、自然の素材を使った楽器を紹介していただきながら、森の木や森に生息する動物についてのお話を伺った後、子どもたちが作った竹笛とオリジナルの楽器を使って、演奏会を実施しました。

子どもたちは、工作によって竹や自然の材料に触れ、その特性を知ることができたほか、完成した楽器を使って演奏することで、楽しい時間を過ごすことができました。



竹笛に紐を付けました



電熱ペンで絵を描きました



自然の素材を使った楽器作り



森の木や動物についての話



演奏会

時間	3時間40分
場所	森の風ようちえん園舎及びその周辺
対象者・人數	園児48人(保護者同伴)
講師	あぱっち宮原さん
内容	・竹笛作り、自然の素材を使った楽器作り ・森の話 ・演奏会
備考	「みえ森と緑の県民税」を活用した 森林環境教育出前授業 ※演奏会については、森の風ようちえん が主催

森林環境教育 出前授業

～体験学習等に「森のせんせい」を呼びませんか？～



森のせんせいってどなた?

森林環境教育の指導者として県に登録されている方々です。団体や個人等、83件（2014年4月現在）の登録があり、県内各地で活躍されています。

～森林環境教育とは？～

森林のはたらきや木材利用の意義について、子どもたちの理解や関心を深めるものです。

「みえ森と緑の県民税」を活用した森林環境教育について

「みえ森と緑の県民税(平成26年4月導入)」では、一定の財源を市町に交付する市町交付金制度を設けており、その使途のひとつとして市町の判断で小中学校等での森林環境教育に活用していくいただくことができるようになりました。

【交付金を活用した森林環境教育実施の流れ】



市町交付金の対象外となる学校については、**県の予算を使って出前授業を実施**していただけます

※10校程度を予定

<豊かでお手伝いできること>

- ・指導者の派遣
 - ・受入施設やフィールドの紹介
 - ・教材、道具等の貸出（無料）

寺
ご要望に合わせて活動内容を
コーディネートします。
みどり共生推進課の相談窓口
までお気軽にお問合せください。

こんな授業ができます！

(森林環境教育の事例紹介)

※「森のせんせい」等が実施している森林環境教育の一例です。

学校での実施例

室内



座学 (森林のはたらき等)



クラフトや木工工作



マイ箸作り



植物を使った染物

室外



校庭の樹木調べ



樹木図鑑作り



グリーンカーテン作り



キノコの菌打ち

校外での実施例

林業体験



間伐



丸太切り



植栽



製材所への社会見学

体験活動等



ガイドと森林散策



森林公園等でのネイチャーゲーム



竹筒炊飯



炭焼きや炭おこし

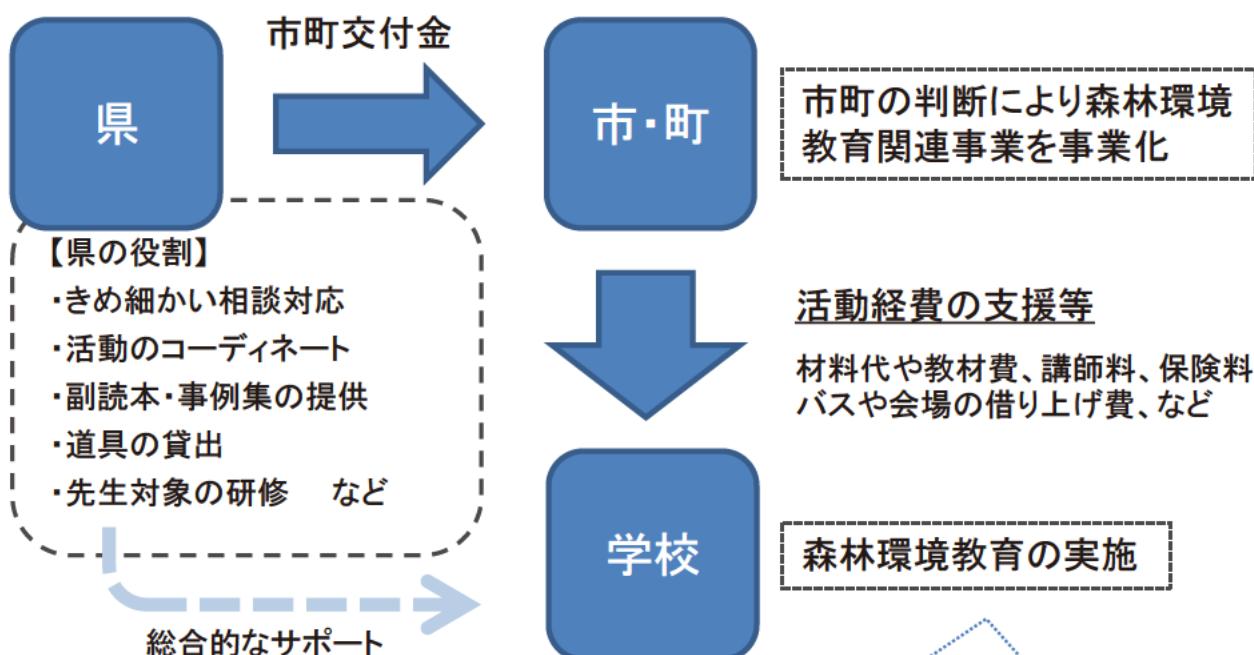
これらは各活動の一例です。他にも様々なプログラムがあります。複数の活動を組み合わせたり、活動場所を変えて実施したり、ご要望に応じて内容をアレンジしながら活動をコーディネートします。

【お問い合わせ先】三重県農林水産部みどり共生推進課
電話:059-224-2513 FAX:059-224-2070 Email:midori@pref.mie.jp

「みえ森と緑の県民税」を活用した森林環境教育について

「みえ森と緑の県民税(平成26年4月導入)」では、一定の財源を市町に交付する市町交付金制度を設けており、その使途のひとつとして市町の判断で小中学校等での森林環境教育に活用していただくことができるようになりました。

【交付金を活用した森林環境教育実施の流れ】



【対象となる取組事例】

①学校で実施できる事例

- ・森のはたらきなどについての座学
- ・クラフト体験や木工工作
- ・校庭の樹木の名札付け、自然観察
- ・学校林での林業作業体験 など

②校外で実施できる事例

- ・県民の森や森林公园での森林体験
- ・宿泊を伴う体験活動での森林学習
- ・遠足での森林体験
- ・製材所等への社会見学 など

【森林環境教育の取り組み方(参考)】

普段の授業や総合学習、遠足やキャンプ・宿泊体験といった行事など

+ 加えて

- ・森林の持つ様々なはたらきについての学習
または
- ・森林資源(木材等)を利用した体験活動 など

↓

森林環境教育

県登録指導者(森のせんせい)の活用
森林体験関連施設の活用
森林環境教育副読本・事例集の活用



お問い合わせ先

三重県農林水産部みどり共生推進課みどり推進班

〒514-8570 津市広明町13番地

TEL:059-224-2513 FAX:059-224-2070 E-mail:midori@pref.mie.jp



この事例集は、「みえ森と緑の県民税」を活用して作成しました。



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。